

ボーリングの実演で 奥深さや魅力伝える

東北地質調査業協会
仙台工業高校で講習

東北地質調査業協会（奥山清春理事長）は、仙台市宮城野区の仙台工業高等学校で定時制建築土木科の1年生を対象とする地質調査講習を14日に開いた。講義とボーリングの実演で、地質の奥深さや魅力を伝えた
＝写真。

橋本岳社副理事長は「地



質調査がなければビルもトンネルも造ることはできない。まさに『インフラのインフラ』だ」と訴え、生徒たちが10年後に現場の最前線に立ってくれることを期待した。春日川孝校長は「専門家から実際に話を聞いて知識を深めてほしい」と述べた。

技術委員会の菅野孝美副委員長が『ピサの斜塔』を事例に地質調査の重要性を解説。基本的な地質の構造などを紹介した。

続いて校庭の片隅に設置したボーリングマシンで、実際に試料を採取。生徒たちは取り出した土に触れ、柱状図の書き方などを学んだ。講義と実演は川崎地質が協力した。

